

令和2年度 学校自己評価(職員年度末評価) 今年度の成果と課題

評価項目	評価の観点	今年度の取り組みの成果	来年度への課題	職員評価				指標	中間指標
				A	B	C	D		
1	学校づくり	<p>新しい学校づくりの完成に向け、普通科教育・理数科教育・中高一貫教育および IV期SSH のプログラムについて更に研究を深め実践することができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一人一研究」「課題探究」「課題研究」において、十分な研究時間が確保できなかったが、限られた時間の中で、主体的に研究テーマを設定し探究することができた。 ・各種コンテストに参加し、成果をあげることができた。 ・「オンライン」による研究発表会に参加することで、新たな手法を身に付けることができた。(SSH) 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動をより発展させるための指導体制や指導方法の確立 ・SSHの取組が、生徒のどんな能力育成に効果があったか、評価検証するシステムの開発 ・新型コロナの影響で海外研修の実施が難しい。したがって海外校との交流をオンラインを活用して実施する。 	17	28	5		81.0	78.2
2	キャリア教育体制を検討し発展させることができたか。	<p>従来の指導体制に基づき、補習・特編授業・模試準備や復習の徹底等に取り組み、生徒の意識付けにも腐心した。(高3)</p>	<p>班活動との両立・授業への集中度・自習室利用等を通じ、集団として受験に取り組んでいく指導。(高3)</p>	23	25	2		85.5	81.9
		<p>基本的に例年のキャリア教育体制に従って補習(朝・放課後・土曜)、夏期補習、模試等を行い、粛々と生徒への指導を進めた。(高3)</p>							
		<p>3年次完全コース制の実施を視野に入れ、生徒の進路や学力を踏まえて既存体制の改善を行った。(高2)</p>	<p>共通テストに対応できるように授業進度を考えながら、生徒の現状に即した指導法について研究を深めたい。(高2)</p>						
		<p>キャリア講演会を2回実施、また職業レポートと文理選択レポートをとおして、文理選択や進路希望を考えるきっかけ作りとした。(高1)</p>	<p>Web開催のオープンキャンパス参加を呼びかけ、志望校について研究を進めるよう働きかける。(高1)</p>						
	進路情報を生徒・保護者に向け有効に発信できたか。	<p>学年行事「地域探索」「福祉体験・パラスポーツ体験」「イングリッシュキャンプ」「大学見学」「修学旅行」を実施することを通して、社会や人とのかかわりを見直すことができた。(中学)</p>	<p>各学年の活動を単発で行うのではなく、他の活動や学年間のつながりを意識し、一人一人のキャリアへの思いを深めるようにする。(中学)</p>	25	25			87.5	
		<p>学年通信、進路関連資料を配布し、学年PTA・保護者説明会・キャリア講演会等の際にもタイムリーな情報を発信した。(全学年)</p>	<p>進路情報が保護者まで届かないことを保護者から相談を受けることがある。必要な情報はきちんと保護者にも伝えるように生徒への指導を強化したい。(高2)</p>						
		<p>節目節目で学年集会を開いてキャリア担当より話をし、意識向上に努めた。また学年通信、進路室たより等で必要な情報を提供した。(高3)</p>	<p>進路情報や校内の様子と共に、新しくなった共通テストや英語4技能外部検定などについても、引き続き研究して発信していきたい。(高1)</p>						
	全教科にわたる総合的学力を養成し、国公立大学を中心に進路実現の可能性を上げることができたか。	<p>学年通信を通して、キャリアに関する情報を発信した。参観日には保護者に学力推移調査の結果をもとに説明することで、学習状況についての情報を共有した。(中学)</p>	<p>保護者・生徒間、学校を加えた三者での情報の共有・理解が必要(高12)</p>	28	22			89.0	
		<p>模擬試験を利用し、過去問の取り組みや事後の復習で学力の伸長の意識付けができた。(高3)</p>	<p>一部ではあるが、科目を絞った方が良いと思われる生徒への対応も必要かと思われる。(高3)</p>						
		<p>科目を減らさず、5-7型で最後まで諦めずに学習に取り組む指導を行った。(高3)</p>	<p>個々の生徒にバランス良く各教科の学力をつけるため、教科間の連携や課題の調整が必要である。(高2)</p>						
<p>各教科の指導の取り組み情報や考査毎の個人績情報を学年で共有し指導に活用した。(高2)</p>		<p>2年次以降の学習指導においても、全教科にわたる総合的学力の養成を目指す。(高1)</p>							
<p>学年集会、保護者説明会、キャリア講演会などを通じて、大学や入試について、知識を深め、幅広く学習することの意義を強調した。(高1)</p>		<p>今後も総合的学力の養成を目指す。</p>							
学びの基礎診断等により生徒の学力や生活実態などの情報を把握し、それを集団と個々に応じた指導に活かすことができたか。	<p>3回の学力推移調査を全学年で行うことで、3年間の学力推移のデータをもとに学習方法について指導した。希望者模試(中3では5教科型、中1, 2では総合的学力調査)を行い、各学年60名程度受援した。考査前には放課後質問講座を開催し苦手教科の克服に努めた。(中学)</p>	<p>考査を年2回にし、学力推移調査の活用をさらに図っていく。次の学年につながる指導に生かす。(中学)</p>	25	23	2		86.5	81.9	
	<p>3年間模試分析を通して各科目の学力実態を把握し、授業をベースにししながら、目的別の補習や個人添削等により個々に適した対処をしてきた。(高3)</p>	<p>生徒のメンタルな部分に配慮しつつ学力の伸長をはかっていきたい。(高3)</p>							
	<p>「スタディーサポート」や各考査の結果、及び年間を通じての個人面談により集団と個々への指導を繰り返した。(高1.2)</p>	<p>学力差が年々拡がり、各成績層に合わせた「学習内容」の充実、「学習意欲」の持続へ課題が残る(高2)</p>							
	<p>学力推移調査の結果に基づいて、二者・三者での懇談を行い、情報を共有してきた。(中学)</p>	<p>生徒の学習実態を継続的に把握し、学年や各教科で情報を共有したい。(高1)</p>							
			<p>二者、三者での共有の充実と、さらに追跡調査を行い、その生徒に合った指導を行っていく。(中学)</p>						

令和2年度 学校自己評価(職員年度末評価) 今年度の成果と課題

評価項目	評価の観点	今年度の取り組みの成果	来年度への課題	職員評価				指標	中間指標	
				A	B	C	D			
3	カリキュラムデザイン	探究的な学びに取り組む姿勢を育てる魅力ある授業が提供できるような教科指導の研鑽に努めることができたか。	6月にオンライン動画を含めて教員間の授業公開を行い、フィードバックシートで授業者への還元を行うとともに各教科で共通参観授業を決め教科会で授業研究を行った。また、9月と2月に授業アンケートを実施し結果のフィードバックを行った。(カリキュラムデザイン)	さらに参観しやすく授業の質向上に資する授業公開の方法、および授業アンケート結果のフィードバックの方法と分析方法について研究していく。	20	24	5	1	81.5	78.2
4	生徒指導	通学中の交通事故をなくす努力ができたか。	自転車の正しい使用について呼びかけたり、張り紙を掲示したりした。(高1) オンラインによる交通安全教室を実施し、通学路のライブ映像を流すなどわかりやすい内容となった。(中学)	引き続き自転車の使用について注意喚起、掲示等で指導していくことが大切である。 道路交通法に基づく自転車走行の規則は引き続き生徒に徹底できるように指導する。(生徒指導)	26	24		88.0	84.7	
		いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	ロッカーの施錠を徹底し、盗難の防止に努めた。 いじめアンケートを実施し、生徒の様子を把握するよう努めた。(高1) SNSとの付き合い方や情報セキュリティの学習会を開催し、自身のかかわり方について振り返った。(中学)	携帯やSNSの利用については、今後も指導が必要である。						
			アンケートの結果ではいじめ等はほぼないと評価できる。(生徒指導)	生徒の安全を確保できるよう生活環境を整える。(生徒指導)						
	人権教育	すべての教育活動が人権教育を基盤として行われ、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりにつながったか。	全校での人権教育講演会を計画していたが、コロナの影響により実施することができなかった。その代わりとして本校独自の人権通信により生徒への情報発信を行った。職員向けには「カウンセリングの基礎・基本」に関する研修会を行った。1学年では性被害防止に関する講演会を行い、人権意識を高めた。中1から高2ではコロナ禍で起きている人権侵害についての人権教育LHRを実施した。また教科、総合的な学習の時間を使い、様々な人権課題を学習した。(高1～高3のべ57時間)	来年度も引き続き、人権問題を自らの課題として考えられるよう、講演会、人権教育LHRを実施する。講演会については実施方法について検討し、中止にならないようにしたい。また教科、総合的な学習の時間などでの取り組みを呼びかけていく。	30	19	1	89.5		85.1
	5	情報発信	本校の教育活動の成果を、保護者、小中学生、地域に伝え、特色ある学校として理解してもらうことができたか。	ホームページにて学校での行事や生徒の活躍の様子を情報発信した。(教務) ホームページのブログを毎日更新し、生徒の様子とともに中学校の先進的な活動や大切にしていることを情報発信した。また、毎月「附属中通信」を発行し、小学校に配布した。(中学) 学年通信、進路関連資料を配付し、様々な機会をとらえタイムリーな情報を発信した。(全学年) オクレンジャーで学年通信を保護者に配信する体制を整備した。(教務)	ホームページを見直し、見やすく使いやすいものにする。 本校の目指す姿や大切にしていることを積極的に発信し、その考えや方向を理解した生徒と保護者を募集していく。(中学) 今後も継続する 情報をより効果的に発信するための手段について研究を重ねる。	25	21	4		85.5
全体	生徒会	質実剛健の気風を大切に、執行部と各会員が一体となった自主活動のための指導支援ができたか。	今年度の状況下において、鳩祭や鳩中祭をはじめ各行事を実現するために、職員の効果的な支援がみられた。(生徒会) 新執行部の役員決めなど自主的な人選を支援することができた。 限られた条件の中で自分たちができることを主体的に考える機会を設けることができた。(高2)	中高でより一体感のある活動を目指していきたい。 今年度の成果と課題を踏まえ、執行部生徒と共に来年度の企画を立案していきたい。 コロナ禍とはいえども、集団としての成長を促す機会を提供してゆきたい。	24	23	3	85.5	86.7	
		生徒一人ひとりが、生き生きとした活動を行うことができたか。	生徒の自主性を促しながら、各行事や日常の活動を充実させた。(生徒会) 例年通りの文化祭ができなかったがそれぞれが与えられた仕事を責任持って行えた。(高2) オンラインを活用しながら、全校の意見を集約し、企画に生かすことができた。(中学)	全校生徒が生徒会活動に関心を持ち、参加できる機会を増やしたい。 より生徒が輝ける場を設けたい。						
	校内美化	清掃用具の充実を図ると共に、生徒が自主的に校内美化を進められるように、指導・支援を行うことができたか。	1学年生徒のゴミステーション活動指導。(厚生) 生徒会と清掃用具点検、ワックスがけ、古紙回収等実施。(厚生)	複数回のモップ交換、教室カーテンの更新。	20	28	2	84.0		80.6